

---

## 第10回アジア証券人フォーラムの開催について

---

日証協 平 17.3.27~29

第10回アジア証券人フォーラム(Asia Securities Forum: ASF)が、「証券市場における地域協力に向けて」を主テーマに、去る3月27日から29日に京都において開催された。

本フォーラムは、日本証券業協会の提唱により、アジア・オセアニア地域の指導的業界人が一堂に会し、同地域における証券界の交流と証券市場の発展に寄与することを目的に、1995年に発足したものである。我が国での開催は、第1回東京、第4回神戸、第6回東京に続いて4回目となり、今回は京都で開催された。

以下に今回のフォーラムの概要報告として、「第10回アジア証券人フォーラム(ASF)の概要」及び「第10回アジア証券人フォーラムコミュニケ」を掲載する。

### 1. 開催日時

自 平成17年3月27日(日)  
至 平成17年3月29日(火)

### 2. 開催場所

京都ブライトンホテル カディコート 京都

### 3. 主催者

日本証券業協会

### 4. 参加者

参加者は、オーストラリア2 中国4 香港6 インドネシア1 日本4 韓国3  
マレーシア2 フィリピン1 台湾4 タイ1の10カ国(地域)からの28名である。

### 5. 内容

次の議題について、各国・地域の代表者の報告及び参加者による意見交換が行われた。会議の内容は別紙の通りであり、コミュニケとして、会議終了後に採択され発表された。

#### (1) カントリーレポート

各国の経済金融情勢と証券市場の状況が報告された。

#### (2) 来賓挨拶

五味廣文金融庁長官が、「日本における最近の証券市場改革」と題して来賓挨拶を行った。

### (3) 来賓講演

株式会社大阪証券取引所主催の昼食会では、同社の米田道生社長がランチョンスピーチを行った。また、前アジア開発銀行総裁の千野忠男氏により、「アジア経済 ～より緊密な地域協力と地域統合に向けて」と題する基調講演が行われた。

### (4) ラウンドテーブル

基調講演のテーマを踏まえ、参加者全員がアジア債券市場の開発等「証券市場における地域協力」の推進について意見交換を行った。

### (5) パネルディスカッション

#### ・ 証券業界の構造変化

グローバル経済の下で、各国の証券各社は新たなビジネスモデルを模索していることが明らかになるとともに、今後の繁栄のため情報交換と共有を続けることを確認した。

パネラー           クン・ホ・ホワン氏（韓国証券業協会）  
                      チュン・ソーン・ヨー氏（マレーシア証券業者協会）  
                      ピーター・ウォン氏（香港オンライン業者協会）  
                      フン・ウェン・チエン氏（台湾証券業協会）  
                      高橋明夫氏（日本証券業協会）

#### ・ 自主規制機関と業界団体

各国の自主規制機関と業界団体の活動や課題が報告されるとともに、より公正・中立な自主規制機能の発揮と効率的な業界活動が重要であるとの認識で一致した。

パネラー           渡辺達郎氏（日本証券業協会）  
                      デヴィッド・リンチ氏（豪州国際銀行証券協会）  
                      ニエ・キンピン氏（中国証券業協会）

#### ・ 投資家教育

各国の投資家教育の活動内容が紹介され、投資家教育は長期的な展望を持って継続的に取り組むべきであることを確認した。

パネラー           チョングラック・ラルエイソン氏（タイ証券会社協会）  
                      ヘンリー・チャン氏（香港証券業者協会）  
                      吉岡一憲氏（日本証券業協会）  
                      ソク・フン・カン氏（韓国証券業協会）  
                      ジョン・イン氏（豪州金融市場協会サービス社）

### 6. その他

来年のアジア証券人フォーラムは、韓国証券業協会が主催して韓国において開催することが了承された。

以上

## コミュニケ (仮訳)

### - 第 10 回アジア証券人フォーラム

1. 第 10 回アジア証券人フォーラム(ASF)は、2005 年 3 月 27～29 日の間、日本証券業協会(JSDA)が主催して京都で開催された。
2. 今年の ASF 会合では、「証券市場における地域協力に向けて」をメインテーマに、政府間の国際協力が進められている中で、アジア・オセアニア地域の証券人が同地域市場における主要なプレーヤーの使命と責任について議論し、同地域の証券市場の発展のため、メンバー間の一層の協力・協同関係を構築することを目指した有意義な意見交換及び議論が行われた。
3. 本フォーラムには、オーストラリア、中国、香港、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、フィリピン、台湾、タイの 10 カ国(地域)から 28 名の代表者が参加した。
4. 今回のフォーラムの議長である JSDA 会長の越田弘志氏は、同地域においてはキャピタル・フロー(資本取引)における目覚ましい成長が見られるが、これは世界経済の発展の中で発生した経済危機を乗り越えて現出したものであると指摘し、その面から、同氏は、さらにアジア各国がその経済の持続的な成長とさらなる発展を確実にするためには、アジア各国が協力して道を切り開くことが重要となろうとの見解を示し、本会議の成功に期待感を表明した。
5. 金融庁長官の五味廣文氏は、アジアからのフォーラム参加者を歓迎して来賓挨拶を行った。その中で、同氏は、日本における当面の金融行政の課題である「金融改革プログラム」を説明するとともに、「金融サービス立国への挑戦」を進めるに際しては、国際的な側面からアジア各国の協力と相互理解が重要であると強調した。
6. 参加した各国(地域)の代表が、順次、自国における経済及び金融情勢について概観するとともに、同国(地域)における今後の発展に影響するであろう当面の問題を報告する各国報告が行われた。それによると、一部の市場では未だ不安定要因が残されているものの、ほとんどの市場では順調な成長を示しているように見え、持続的な成長軌道が堅持されるものと期待されている旨が報告された。
7. (株)大阪証券取引所主催の昼食会では、米田道生社長がランチョンスピーチを行った。同氏は、その中で、アジア各国が協力して資本市場の整備に努めなければならないが、およそ 300 年前に世界で最初の先物取引が行われた地である大阪に位置する大阪証券

取引所は、革新的精神を持ってアジア証券市場の発展のために貢献したいと述べた。

8. アジア開発銀行前総裁である千野忠男氏による「アジア経済 - より緊密な地域協力と地域統合に向けて」と題する基調講演が行われた。同氏は、講演の中で、アジアは今後とも世界で最も成長率の高い地域であり続けるだろうし、同地域における高い貯蓄率を長期の生産的投資に投入することによって、より効率的な資本市場の開発が経済発展のための重要な礎を提供するものとなろうと主張した。さらに、アジア各国は、アジア債券市場の開発を含む多方面にわたる地域協力を一層推し進めるべきであると強調した。
9. 今回のフォーラムでは、千野氏の基調講演の内容を踏まえ、全ての参加者が意見交換を行うラウンドテーブルを行った。その中で、参加者は、EUと同様の通貨統合を含む地域協力の進め方について議論した。また、各国政府間レベルで具体化されつつある「アジア債券市場」について、民間資金を呼び込むことにより、アジアにおける高い流動性を持った懐の深い債券市場を創設するため、各国はこれまで以上に地域協力を推進すべきであることを強調した。
10. 最初のパネルディスカッションは、「証券業界の構造変化」というテーマで議論された。グローバル化した経済の下で、各国政府が規制緩和と自由化による自国の金融市場改革を推進していることが指摘された。各国における証券業務は、業界内における競争や他業界から新規参入といった競争の激化等に直面しつつも、生き残りのため、収益源の多様化のために、新たなビジネスモデルの構築を模索していることが明らかになった。そして、アジア各国は、今後のさらに繁栄した証券業界となることを確保するためには情報交換及び共有を継続すべきことを確認した。
11. 2番目のパネルディスカッションは、「自主規制機関と業界団体」というテーマで行われた。パネリストは、各国の自主規制機関と業界団体が現在行っている業務や取り組んでいる課題を報告した。そして、各国の自主規制機関と業界団体は、これまでの資本市場の環境変化に対応しながらその役割と性質を変えてきたことを注視し、今後、より公正・中立な自主規制機能の発揮されること及び時代の要請に応える効率的な業界活動が重要となるとの認識で一致した。
12. 最後のパネルディスカッションは、「投資家教育」というテーマで議論された。パネリストは、各国でそれぞれに取り組まれている投資家教育の活動内容、問題点やこれからの課題を説明した。そして、投資家教育は、投資家の保護や市場の信頼向上に資するとともに、投資家の裾野を拡大して証券界の発展の礎となるものであり、長期的な見通しをもって継続的に取り組むべきであることを確認した。

13. 韓国が2006年の第11回ASFの主催国となる意向を表明し、参加者はその申し出を了承するとともに感謝の意を表明した。本フォーラムは、JSDA会長の越田氏により閉会の辞が述べられて閉会した。

以上

- |          |                             |
|----------|-----------------------------|
| (豪州)     | 豪州国際銀行証券協会<br>豪州金融市場協会      |
| (中国)     | 中国証券業協会                     |
| (香港)     | 香港証券經紀業協會有限公司<br>香港網上經紀協會   |
| (インドネシア) | インドネシア証券会社協会                |
| (日本)     | 日本証券業協会                     |
| (韓国)     | 韓国証券業協会<br>韓国証券取引所 コスダック市場部 |
| (マレーシア)  | マレーシア証券会社協会                 |
| (フィリピン)  | フィリピン証券業者協会                 |
| (台湾)     | 中華民國証券商業同業公会                |
| (タイ)     | タイ証券会社協会                    |